

第6回国際成人教育会議（CONFINTEA）

のための国内「草の根会議」

開催日時 2009年1月21日（月）午後6時～8時

開催場所 法政大学（市ヶ谷）80年館 丸会議室

議事録案（小荒井 - 荒井若干修正）

参加団体：

- 社全協（荒井、上田、長澤、野々村）
- 日本社会教育学会（常葉-布施、野元、除村、持丸）
- 全国社会教育職員養成研究連絡協議会（三輪）
- シャンティ国際ボランティア協会（三宅）
- 教育協力NGOネットワーク（三宅、小荒井）
- 開発教育協会（三宅）
- 日本図書館協会（小林）
- 『月刊社会教育』編集委員会（荒井）
- 日本青年団協会（鳥澤、中山）

野元（日本語フォラム全国ネット）

野口（日本経営協会）

福田（ERIC）

1 市民社会組織（CSOs）による日本レポート作成に向けて

荒井先生より全体構成について説明後、各団体が配布資料に基づき構成案を発表、次のようなコメントがなされた。

- 識字は重要なテーマのため、日本国内と海外両方に焦点を当て記述するという案もある。
- 開発教育について、記述は成人教育に絞る必要がある。
- 日本における社会教育の職員について、社会教育主事というものが何なのか、海外の読者に理解が得られるように日本の社会教育全体の枠組みも明記する必要。
- ジェンダーについては各論だけでなく、レポート全体にジェンダーを横断的な視点として取り入れることが必要。
- 成人だけでなく、青年の教育についての記述があればなおよい。
- 先住民や沖縄における教育も盛り込むとよい。

- アピールできるような実践例もあるとよい。
- 学会（学会の創設・学会での活動など）については各論のテーマの1つとして取り扱う。

2. 全体の構成

議論の結果、CSO レポートの構成は以下のとおり決定された。

（1）総論

総論についてはは社会教育学会、社全協が相談の上、各論と同時並行で作成する。

（総論は各団体からのレポートと並行して執筆を進めつつも、最終的には、各団体のレポートの成果を反映させてまとめる）

（2）テーマ別（各論） 各論は各団体が作成

その分野での政策、予算（国、自治体、あるいは企業の場合には支出）、そして運動・実践の動向、優れた実践事例を、過去12年ほどをめぐりにふりかえってまとめる。

できるだけ簡潔に書き、すでに日本のナショナルレポートで紹介されていること（予算ほか - しかし、ふれていない部分については可能な範囲で調査・言及してほしい - 他省庁の関連予算など）についてはそこに言及する形（批判的に記述することは構わない）にとどめて、重複をさける。

3. 分量

分量： 4,000字～1万字程（各団体・あるいは各テーマで）

取り扱うテーマ数によって増減はありうる。

4. スケジュール

- ・ 2月末までに各団体が執筆。メールで荒井先生に送付。
- ・ 3月9日（月）に集まり、各論、総論に対するコメント、編集について協議する。
午後6時～9時、法政大学市ヶ谷キャンパス80年館7階丸会議室
- ・ 3月下旬：日本語版完成

* 英訳については、日本版を執筆した団体が各自行う。